

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

発達障害等支援を必要としている子どもたちの健やかな成長・発達を合理的配慮の下で保障するために、それぞれの学校のもっている幼保園・福祉・家庭・医療等のネットワークを活性化する。

- コーディネーターの学校訪問による関係機関をつなぐ支援
- 幼保小接続期カリキュラムに基づく小中の連続した学び作り
- 継続相談による長期的な保護者・子どもサポート

成果

- ① 成長の記録の共有・園訪問が就学前からの早期支援につながった
- ② 幼保小中の連続した学びや環境設置が意識されるようになった
- ③ 授業のユニバーサルデザイン化にむけた校内研修が充実した
- ④ 放課後等デイサービスでの対応を学校が学ぶようになった
- ⑤ 医療機関からの助言を学校が指導に生かせるようになった
- ⑥ 自己理解に基づく進路選択が推進された
- ⑦ 保護者・教職員への助言・相談対応が小中で継続できた

・成果を踏まえた今後の取組

家庭状況・外国籍等の子どもを取り巻く状況に対応する多岐にわたる関係機関との連携体制の構築が必要である

事業内容

・コーディネーターによる学校のチーム支援体制の確立

- ① ユニバーサルデザインに基づいた学校づくりへの助言
- ② 個別の支援計画等を活用した指導・支援についての助言
- ③ 園訪問やスクリーニング会議による早期対応
- ④ 移行支援を含む支援会議
- ⑤ スクールソーシャルワーカーとの協働による保護者サポート
- ⑥ 放課後等デイサービスについての情報共有
- ⑦ 発達検査等に係る医療機関との連絡調整
- ⑧ 特別支援学級・通級指導教室の運営についての助言

